

きれいな湖を将来へ

中海・宍道湖が平成17年11月にラムサール条約湿地に登録されたことをきっかけに、沿岸自治体と連携して毎年、一斉清掃を行っています。その会場の一つである中海沿岸の島田干拓地で、清掃活動を行いました。

多くの水鳥が飛来し、さまざまな生き物が生息する中海。その自然豊かな中海を守るために、今後も環境保全に努めていきます。



参加者とともにごみを拾う田中市長（右）
（6月12日）



このマークの記事は、関連写真を「市公式フェイスブック」で公開しています。



紹介します
出来事を
まちの話題や

たうんとぴっくす

TOWN TOPICS

今月の1枚



社日交流センター主催の子どもお楽しみ会。社日小学校の子どもたちが社日山散策とパフェ作りを行いました。社日山の植物について講師の解説を聞きながら、子どもたちは草木の手触り、匂いなど五感で登山を楽しみました。
6月20日：社日山（日本台）



登山で地域と繋ぐ縁

▲ガイドの解説を聞きながらの登山。今回の交流会には7人のしまね留学生が参加しました。

広瀬町の寮で生活する情報科学高校のしまね留学生と地域との交流の輪を広げようと、6月4日に広瀬交流センター主催で縁つなぎ交流会が行われました。参加者は、月山富田城について歴史資料館で学んだ後、実際に登山しました。地元住民として参加した池上さんは「まずは顔見知りの関係となり、気軽に話せる関係になれば」と話しました。

しまね留学とは意欲のある県外生徒を募集する取り組みで、情報科学高校ではIT技術などを学びたい生徒を受け入れています。

島根県立大学の交流拠点施設となる「サテライトキャンパス（YASUGI 未来アトリエ）」の開所式が6月18日、やすぎ懐古館一風亭で開催されました。

このキャンパスは県立大学が高大連携やゼミ活動、学生交流などの拠点として活用します。高大連携のプロジェクトでは「KENDAI 未来アトリエ」を今年度から新しくスタート。安来高校と情報科学高校の生徒約20人が、県大の教員・学生や市内の社会人と交流しながら自分の未来と地域の未来を考えるキャリア講座を学んでいきます。



▲「YASUGI 未来アトリエ」の除幕式。看板を情報科学高校の生徒がデザインしました。

県大拠点、オープン



狂言三代そろい踏み

▲親子三代（野村裕基さん(左)、万作さん(中)、萬齋さん(右))による「二人袴」の一場面。

アルテピア開館5周年を記念して、6月2日に人間国宝・野村万作さんと萬齋さん、裕基さんの親子三代による狂言公演を開催しました。

公演では有名なとんち話「附子」と、明るくめでたい聲狂言の代表曲「二人袴」の2作品を披露。公演前に萬齋さんによる解説があり、「狂言は笑いの演劇。身近で親しみやすいものです」と狂言の魅力や演目について分かりやすく説明していました。

満席となった会場は豪華出演者による日本最古の笑いで、心和む笑顔につつまれていました。

乾シイタケの品質や生産技術の向上を目的に、やすぎ椎茸部会が主催する乾椎茸品評会が6月3日に行われました。最優秀賞相当の東部農林水産振興センター所長賞を獲得したのは岩田勇夫さんが出品した、肉厚で傘の表面が茶色い花模様のようにひびが入っているのが特徴の品種、茶花どんこ。

やすぎ椎茸部会の藤原康孝会長は「全体的にシイタケの生産量が減少した年だったが、受賞品は大きさが均一でひびがきれいに入っているものが多く、品質が高いものがそろっていた」と話しました。



良品集結、品評会

▲出品された9点の乾シイタケは、6月16日に開催された県品評会に出品されました。

安来高校が身の周りや社会の課題を生徒に見つけてもらおうと、6月9日に同校で「トーク・フォーク・ダンス」が行われました。

このイベントは、生徒と地域の大人が輪を作って向かい合い、1対1でお題に対して語り合うもの。1～2分ごとに入れ替わり、生徒たちは普段接点の少ない地域の大人と対話することで、さまざまな価値観を知るきっかけになっていました。

渡辺陽向太さんは「対話で出た意見を参考に、取り組む課題を決めていきたいです」と話していました。



地域の大人と対話

▲2年生147人と地域の大人78人が参加。生徒たちは積極的に自分の考えを伝えていました。



ドジョウ養殖開始

▲引き渡す稚魚の袋詰めをする組合員。1袋に約15,000匹の稚魚が入れられました。

6月8日と9日に、やすぎどじょうセンターでふ化させたドジョウの稚魚が、市内の養殖農家に引き渡されました。今年度ふ化した稚魚は約230万匹。そのうち約86万匹が引き取られ、休耕田などで育成の後出荷されます。今年度の生産量は3.5トンを目指しています。

やすぎどじょう生産組合の近藤忠治さんは「生産量はコロナ禍前に比べるとまだまだ少ない。稚魚の入った桶がハウスいっぱいになぶくらいに戻ってほしい」と話しました。